

# 愛知県ハンガリー友好協会会報

2016年秋号

## 《 2016年度通常総会と懇親会 》

早稲田みか（大阪大学教授）

2016年10月17日、名古屋国際ホテル2階「若桜の間」において、2016年度通常総会と懇親会が行われました。

副会長の賀来芳弘さんの司会のもと、急遽仕事のため東京に行かなければならなくなった藤川政人会長（参議院議員）にかわり、全権を



寺西むつみ先生

委任された理事の寺西睦さん（愛知県議会議員）が開会のあいさつを行い、その場で議長に選出され、議事が進行しました。事務局長の志村美佐子さんから2016年度の事業と収支決算の報告があり、承認されました。続いて、2017年度の事業計画案、予算案、役員案が審議されて、いずれも満場一致で承認されました。役員に異動があり、酒井庸行さん（参議院議員）が副会長に就任し、石田耕三さんが役員を退任しました。



司会：賀来さん

2016年度もたくさんの事業を行いました。10月には小牧市民まつりに参加、12月にはグヤーシュをつくってクリスマス会を催しました。メインの行事である6月のハンガリーフェスティバルでは「マリンバ演奏とハンガリーのロック・シーン」と銘打って、マリンバ演奏、ハンガリーのロックについての講演、子どもの絵や刺繍サークルの展示が行われました。

来年度も引き続きクリスマス会、ハンガリーフェスティバル、ハンガリー刺繍サークル、ハンガリー語入門講座、ハンガリーとの絵画交換などを行う予定になっています。また、来年度は協会設立20周年にあたることから、特別な記念行事や記念誌を作成することを計画しています。会員のみなさまの積極的なご参加とご協力をお待ちしています。





バラノビチ・ノルバート大使

総会の後は、新しく駐日ハンガリー大使に着任したばかりのバラノビチ・ノルバートさんのあいさつがありました。バラノビチ大使は名古屋と縁が深く、名古屋大学で博士号を取得するなど、10年以上名古屋に住んでいたことがあります。ひつまぶしが好物とのことで、この日も昼食はひつまぶしを召しあがったことを楽しそうにお話しされました。大使としての最初の地方訪問地としてぜひ名古屋来たかったという大変うれしいお言葉をいただきました。



コーシャ・バーリン・レイ一等書記官

新大使のあいさつに引き続き、ハンガリー大使館一等書記官、経済・商務担当のコーシャ・バーリン・レイさんの講演が行われました。「ハンガリーの歴史と見どころ」と題された講演では、スライドを使いながら、ハンガリーの歴史や文化、とくに温泉や食文化などについてのお話をうかがうことができました。コーシャさんのお母様は大垣のご出身とのこと、今回は愛知県に縁のある方をお二人も大使館からお迎えすることができました。



チョルダーシュ・ジュラさん

講演のあとはチョルダーシュ・ジュラさんのアコーディオンの演奏を楽しみました。あまりにも哀しげな歌詞とメロディーで、これを聞いた人が次々と自殺したといわれている「暗い日曜日」という世界的に有名な曲をはじめとして、戦間期にハンガリーで流行った歌が、当時のノスタルジックな白黒の映像を背景に演奏されました。哀愁にみちたアコーディオンの音色にみなさんうっとり聞き入っていました。



この後、別室にて記念の写真撮影をしたあと、寺西睦さんのハンガリー語による「乾杯」(エゲーツシェーグンクレ)の発声により、ハンガリーワインで乾杯、ハンガリーサラミなど、おいしい食事と会話を楽しみました。





大使と早稲田先生

事務局長の志村美佐子さんが出席者のみなさんを紹介、最後は田中志典さんの中締めでいったんはお開きとなりましたが、その後も会場を追い出されるまでしばし楽しい歓談が続きました。



歓談する会員の皆さま



## 《大相撲名古屋場所表彰式ーハンガリー国友好杯授与式》

7月24日（日）愛知県体育館で行われた大相撲名古屋場所千秋楽、ハンガリー大使の代理として協会のゾンボリ・アンドール理事が優勝者の日馬富士関に表彰状とヘレンドの大きな器を贈呈しました。大使館からの依頼は今年で4回目になります。



## 《ハンガリー刺繍サークル特別講座》



7月25日（月）10：00～15：00名古屋国際センター3F第2研修室で谷崎聖子先生をお迎えしてトランシルヴァニアの伝統刺繍「イーラーショシュ」についての講演と実演指導をしていただきました。

谷崎先生は大阪外語大学(現大阪大学)のご出身で早稲田先生のご尽力でこの講座が叶いました。この日は28人が参加、午前午後とたっぷりご指導いただきました。

最初の約1時間でトランシルヴァニアのこと、イーラーショシュのことを映像を使ってご紹介していただきました。その後、かわいいキット(写真の赤いドイリー)の刺し方のご指導を受けました。



皆さんのところを何回もまわって下さって、とても丁寧に詳しく教えていただきました。そして大きなキットを買い求め、次の作品に取り掛かっています。



谷崎先生は来年のハンガリーフェスティバルの講演もお引き受けくださいました。この時には素敵な作品がいっぱい並ぶことでしょう。



なお、谷崎先生はトランシルヴァニアの文化を日本に紹介して下さるだけでなく、日本の文化を現地の人たちにも紹介して下さっています。日本からピアニストを呼びコンサートをしたり、床の間空間をご主人様がお作りになってお茶会や紙芝居、生け花の紹介などの「日本の日」の開催は今回で三度目だそうです。



茶道 生け花 折り紙など



## 《親子で楽しむ美術館「ハンガリー展」》



“見て、読んで、描いて、パズルもしましょう！”

11月5日(土)～13日(日)10:00～17:00  
小牧市まなび創造館市民ギャラリーで「ハンガリー展」を行います。小牧市・小牧市教育委員会主催で当協会が企画運営を行います。

ハンガリーの子供たちの絵画展、ハンガリー刺繍サークル作品展と、ハンガリーを紹介する大きなパネル9枚とマチョー刺繍の民族衣装(男女)をハンガリー大使館からお借りして展示いたします。マチョー刺繍は2012



年にユネスコ無形文化遺産に登録されたので是非ご覧ください。 マチョー民族衣装

また、ハンガリーの絵本読み聞かせを5日(土)と12日(土)は11:00～、6日(日)と13日(日)は午後2:00～行います。「ラチとらいおん」「耳がチェック柄のうさぎ」のアニメ上映は随時行う予定です。



ジュラさん

6日(日)の11:00～と午後1:30～は Cholodarsy Jura さんにアコーディオンでハンガリーの音楽を演奏していただきます。かわいいハンガリーの歌をみんな一緒に歌いましょう！

ハンガリーの絵本・塗り絵・ルービックキューブ・指人形づくりなどの体験コーナーもあります。小さいお子さんから大人の方までお楽しみ頂けることでしょ。

## 《ハンガリー料理でクリスマス会》



遠藤さん



オルショヤさん

12月18日(日)9:00～名古屋国際センター3F第1研修室で行います。

今回は「THE ハンガリーの食卓」というテーマで、グヤーシュスープ、ビーツサラダ、パラチンタを作ります。指導は昨年も教えていただいたカーロイ・オルショヤさんと遠藤綾女さんです。美味しいパン・マンガリッツァサラミ・ハンガリーワイン赤白も用意します。

ハンガリー料理でクリスマス会を楽しみましょう！

愛知県陶磁美術館特別企画展

## 《ヘレンド —皇妃エリザベトが愛した ハンガリーの名窯—》

会期：2017年1月7日(土)～3月26日(日)



ハンガリーの誇る名窯ヘレンドで制作された磁器は、ヨーロッパ各国の王侯貴族に愛されてきました。ブダペスト国立工芸美術館、ハンガリー国立博物館、ヘレンド磁器美術館、またハンガリー国内の所蔵家の方々からの貴重な作品約230点で、ヘレンドの輝かしい190年のあゆみが紹介されます。

## 《友人に支えられたハンガリー生活14年》

群馬県草津町在住 小松 裕文

14年間のハンガリー生活から日本に本帰国したのは2014年の大晦日の前日だった。2013年の歳末に帰国を決めてから丁度一年後のことだった。

75歳を前にして体力の衰えと病気や怪我への不安が感じられ始めた頃、日本の友人のいくつかの訃報や重病の知らせが日本帰国を決心させるきっかけとなった。

ハンガリーの医療施設の貧しさは豊かな日本のそれを知っている者には耐え難いものがある。

帰国にあたって最も重大且つ困難だったのはブダペストに隣接するチョメル市に所有する不動産（土地+家屋）の処分だった。



Csomor 花まつり

### <不動産処分顛末記>



ご自宅

いくつかの不動産屋に査定を依頼して、最も高い価格をつけてくれたA社のホームページに掲載したのは4月のこと。低迷するハンガリーの経済下では不動産や自動車の売り物件は巷にあふれているが、購入希望者は少なく値段も最盛期に比べて30%も安く査定されていた。

8月の末までに見に来た購入希望者はわずかに二人だけ。かなり安い値段を付けが、現状とはかけ離れた高い価格だったのだろう。

9月になって値下げをし、不動産屋のHPで告知した。すぐに反応があり、二組の家族が見学に現れた。二組目の家族はご夫妻と三人の女の子。非常に熱心に家をチェックし、幾つかの質問もした。帰って1時間、電話で購入したい旨の連絡があった。購入希望額の提示もあって、たちまち商談成立。あっけないほど簡単に決まった。但し買い手の希望条件は銀行ローンを付けての購入。

### <問題ありき不動産>

銀行ローンをつけるため書類をチェックしてもらったところ次のような問題点が見つかった。

- ・土地は農業地であること。
- ・家屋が登記簿に記載されていないこと。

問題が解決しなければ売却不可能。活字にすれば簡単に思えるがハンガリー語を理解できない筆者にはクリアする能力はない。幸いにも友人とチョメル市に住む不動産屋の担当者が奔走して、問題を順次解決してくれ、何とか売買契約にこぎつけることができた。この間3カ月以上、気が重い毎日だった。

ハンガリーでは本来、外国人が農業地を買うことができないと聞いているが、筆者の場合は何故かそのケースに当てはまらなかった。購入した時、売買契約書を作成した弁護士が裏道を知っていたとしか思えない。また登記されていない家屋に12年も住むことができ、しかも正式な滞在許可証を取れたのも、今から考えると不思議なことであり冷や汗ものだった。

住んでいた農業地を市街地・別荘地に登録する作業は比較的簡単に済んだ。

問題は家屋を登記簿に載せる作業だった。この作業は多くの労力と費用が掛かった。家屋はハンガリーがEU加盟前に建てられたもので、前述したように登記簿に登載されていなかった。前のオーナーから渡された図面の家屋は実測したものより小さく書かれており、先ず正確な図面作りから始まった。新築の家を建てるための図面作成と同じ労力と費用が発生した。また登記簿に載せるためには家屋がEUの定める安全基準を満たしていなければならなかった。家の中に新たに換気坑を開けることが要求された。居間にある暖炉の改良も要求された。長い煉瓦製の煙突の中にスチール製の煙突を通す作業だった。工事の前に検査官のチェックがあり、実際の工事の後、検査官の再チェックを受けてOKが出たのは作業を始めて2ヶ月後のことだった。連日作業員と検査官が入れ替わり立ち代り訪れた。

全てが整って、登記簿に載せる作業が最後のステップ。この作業も友人と不動産屋の担当者が作業を進めてくれた。唯一つ筆者が役に立ったことがある。チョメル市の市長と副市長が顔見知りであったため、市の作業期間が大幅に短縮できたことである。

チョメル市とグドゥル県から最終の許可が出たのは12月の中旬。作業を始めて約3カ月のことだった。

12月19日にようやく買主との間に待望の売買契約を交わすことができた。

30歳の時に初めて小牧市に家を購入してから今回が6回目の不動産の売買。加齢に加えて異国での作業は困難を極めた。

## <友達は財産>

ハンガリー語を話せない筆者が帰国にあたって不動産を処分できたのは全て友人のお陰。日本語、ハンガリー語に堪能な彼なしには今回の不動産の売却はできなかつたらう。

ハンガリー14年の生活が大過なく楽しく過ごせたのは多くの友人が支えてくれたからだ。コンピューターやインターネットのトラブル、テレビや電話のセッティング、医者や歯医者の相談、交通事故、違反のトラブル、その他日常の数々のトラブルを解決してもらったからだ。携帯電話を通して通訳をお願いしたことも数知れない。



テラスで食事

マエストロ小林研一郎、左手のピアニスト・館野泉、リスト音楽院の教授のヴァイオリニストV・サバディなどの著名な音楽家と知り合えたのもハンガリー生活での貴重な経験だった。特にマエストロ小林との関わりは日本では経験できないこと。演奏会の追っかけをし、食事やパーティーに招いて頂いただいたこともある。ゴルフを一緒にプレーしたのも思い出深い。そんな機会を持てたものもハンガリー生活の大きな思い出だ。

ハンガリーのオーケストラは技術的に世界のトップクラスかと思うがそのメンバーと知り合えたのもハンガリー生活の彩りになった。安い団員チケットを斡旋して頂き一流のオーケストラの音楽を楽しめたのは何とも贅沢な話。メンバーでなければ知らない内輪話もきかせてもらった。

テニスを通して多くの仲間もできた。日本ではなじみの薄いクレーコートでプレーをし、息子や娘と同じ年頃の仲間と遊べたのは、精神的にも肉体的にも健康で過ごせた秘訣だったかも知れない。

ウィーンのテニス仲間とゲームをした時マエストロ小澤征爾と記念写真を撮ったことも思い出に残る。

ドイツやオーストリアにも多くの友人ができた。特にノイマルクト、ニュルンベルグ、ミュンヘン、ウィーンの友人宅を基地にした美術館巡りは楽しいものだった。

多くの人と知り合えてお陰で日本しか知らなかった世界が大きく広がった14年間であった。まさに「友達に財産」である。

### <なぜハンガリーなの？>

「サンデー毎日」「365日が海外旅行」・・・そんな思いで始めたハンガリーの田舎暮らし生活だった。

「年金で豊かな老後生活を送りたい」という思いは50歳頃、会社の定年10年ほど前から考えていたこと。財産も蓄えも十分でないから物価高な日本ではとても年金で十分な生活はできない。物価の安い所で生活すれば、年金が増えたのと同じことと発想の転換をした。

当時「シルバーコロンビア計画」なる構想が厚生省から出され、多くの海外移住、不動産投資のセミナーが開かれていた。それを参考にした記憶も残る。候補地として挙げたのは東南アジア、オーストラリア、ハワイなど等。確かに自然には恵まれ、物価は安い、歴史は浅く、音楽会、美術館などの芸術面などは満足できる環境ではない。

仕事で知り合ったハンガリー人夫妻と交流を始めたのがハンガリー移住のきっかけになった。ハンガリーを何度か訪ねるうちにハンガリーの音楽、ワインの魅力にはまり、物価の安さ、オーストリアなどの近隣諸国に簡単にアクセスできるロケーションのよさなどがハンガリーに居を定める決め手となった。 リンゴ狩り



千葉県流山市にあった自宅を処分して、ブダペストに隣接するチョメル市に900㎡の敷地と150㎡の建物を取得したのは2002年4月。ブダペストを一望する庭にはリンゴ、ナシ、サクランボ、サワーチェリー、ブドウ、桃、プラムなどがあり5月下旬から10月中旬までは取りたての果物が食卓を飾った。サクランボ、リンゴの収穫時期にはブダペスト在住の日本人親子をサクランボ狩り、リンゴ狩りに招くのが恒例なイベントだった。ブドウ液を絞って手作りのジュース作りも恒例のイベント。冷凍して自然の味を一年中楽しんだ。

ハンガリーの物価は日本のそれに比較して安く、生活し易かった。65歳以上の滞在許可証があればハンガリー国内の交通費（国鉄、各市のバス、地下鉄トラム）は無料、ハンガリー人と同じ健康保険が使えたので経済的には随分助かった。

ハンガリー以外の国を訪ねる機会も多く、楽しみでもあった。陸続きの隣国に簡単に車で行けたのはハンガリーの立地条件が良かったからで、帰国前の10年間はカローラが愛車、ドライブした距離は約23万キロだった。 ブドウジュース作り



景色や街を楽しみ、歴史的建造物に接し、美術館、博物館を訪れ、一流のオーケストラやオペラも楽しめた。



第一次世界大戦の発端になったサラエボ事件の舞台にラテン橋、第二次世界大戦の日本の終結条件が示されたポツダム宣言が話しあわれたポツダム・ツエツイーリエンホーフ宮殿、東西ドイツを分けていたベルリンの壁崩壊の基になったハンガリーショプロン郊外。フェルテラコシュなどの歴史の舞台を訪ねたことは強く印象に残る。

## <草津温泉>

ハンガリーの不動産の処分と並行して日本での住居探しも重要な帰国作業。



ご自宅のマンションからの展望。草津国際スキー場方面

大学の4年間と就職してから住んだ名古屋市、東京勤務時代に自宅を構えた千葉県流山市、6歳から18歳まで過ごした長野県山ノ内町、そのほか長野県原村、諏訪市、佐久市、群馬県草津町など筆者と妻に所縁の町や市を候補に上げた。

住居探しはインターネットの空き家情報を利用した。老人医療が行き届いている原村、諏訪市、

佐久市には手ごろな空き家が見つからず、これ

らの街に住むことは断念せざるを得なかった。山ノ内町は活気が欠けており、魅力が感じられなかった。名古屋市、流山市は長年住んだこともあり、友人も多いので住みやすい所だが、夏の蒸し暑さは耐え難いものがある。

草津町には流山市在住の頃よく訪れた。妻の友人のリゾートマンションを借りて滞在し、大学時代の友人とゴルフに訪れた機会も多々あった。筆者の実家のあった長野県山ノ内町を訪ねた時立ち寄った場所でもあった。白根山の恵まれた自然は大きな魅力である。



草津温泉感謝祭

幸いなことに長男夫妻が長野県軽井沢町に住んでおり購入希望のマンションの見学、



草津祭り

調査や改築工事のために足繁く草津町に足を運んでくれた。

日本一と評価される温泉は暑さ知らず、標高1200mの高原はクーラー不要、扇風機のお世話になるのは年間数えるほど。

春の山菜とり、夏のハイキング、テニス、ゴルフ、秋のキノコ狩り、冬のスキーとシーズンを通して楽しめる。

夏の音楽祭には世界から一流の音楽家が訪れ、学生の指導にあたり、連日コンサートで演奏してくれる。

高齢者にはがん検診や身体検査が無料で実施され、健康増進のためのプログラムが多数用意されている。高齢者に優しい町である。



湯畑の足湯



草津町 町花 シヤクナゲ

\*本稿はハンガリーで発行されている日本語情報誌「ドナウの四季」に掲載されたエッセイをリライトしたものです。